

広島76回目「原爆の日」

■広島市長・平和宣言 全文

松井一実市長の平和宣言の全文は次の通り。

◇

76年前の今日、わが故郷は、1発の原子爆弾によって一瞬で焦土と化し、罪のない多くの人々にむごたらしい死をもたらしただけでなく、辛うじて生き延びた人々も、放射線障害や健康不安、さらには生活苦など、その生涯にわたって心身に深い傷を残しました。被爆後に女の子を生んだ被爆者は、「原爆の恐ろしさ



平和記念式典で平和宣言を述べる広島市の松井一実市長。いずれも6日午前、広島市の平和記念公園

を思い、わが身よりも子どもへの思いがいつばいで、悩み、心の苦しみへと変わっていき。娘の将来のことを考えると、一層苦しみが増し、夜も眠れない日が続いた」と語ります。

「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」、これは思い出したくない、これは悲惨な体験をした被爆者が、放射線を浴びた自身の身体（からだ）の今後や子どもの将来のことを考えざるを得ず、不安や葛藤、苦悩から逃れられなくなった揚げ句に発した願いの言葉です。被爆者は、自らの体験を語り、核兵器の恐ろしさや非人道性を伝えるとともに、他人を思いやる気持ちを持って、平和への願いを発信してきました。こうした被爆者の願いや行動が、75年という歳月を経て、ついに国際社会を動かし、今年1月22日、核兵器禁止条約の発効と

■首相あいさつ 全文

原爆死没者慰霊式・平和祈念式での菅義偉首相のあいさつ全文は次の通り。枠内は読み飛ばした部分で、官邸の発表に基づいて追加した。

◇

本日、被爆76年目の広島市原爆死没者慰霊式ならびに平和祈念式が執り行われるに当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々のみ霊に対し、謹んで、哀悼の誠をささげます。

そして、今なお被爆の後遺症に苦しまれる方々に、心からお見舞いを申し上げます。世界は今も新型コロナウイルス感染症という試練に直面し、この試練に打ち勝つための奮闘が続いております。

わが国においても、全国的な感染拡大が続いておりますが、何としても、この感染症を克服し、一日も早く安心と

平和記念式典であいさつする菅首相

■子ども代表・平和への誓い 全文

私たちには使命があります。あの日、広島で起きた悲惨な出来事。

そのことを知り、被爆者の方々の思いや願いを聞き、考え、

平和の尊さや大切さを、世界中の人々や次の世代に伝えなければならぬのです。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。

赤く燃え、真っ黒に焼け焦げてボロボロになった広島町の町。

「兄が死ぬより、わしが死んだ方がよかった」

いう形で結実しました。これからは、各国為政者がこの条約を支持し、それに基づき、核の脅威のない持続可能な社会の実現を目指すべきではないでしょうか。

今、新型コロナウイルスが世界中にまん延し、人類への脅威となっており、世界各国は、それを早期に終息させる方向で一致し、対策を講じています。その世界各国が、戦争に勝利するために開発された、人類に凄惨（せいさん）な結末をもたらす脅威となつてしまった核兵器を、一致協力して廃絶できないはずはありません。持続可能な社会の実現のためには、人々を無差別に殺害する核兵器との共存はあり得ず、完全なる撤廃に向けて人類の英知を結集する必要があります。

核兵器廃絶の道のりは決して平坦ではありませんが、被爆者の願いを引き継いだ若者が行動し始めていることは未来に向けた希望の光です。あの日、地獄を見たと言語る被

爆者は、「たとえ小さなことからでも、一人一人が平和のためにできることを行い、かけがえない平和を守り続けてもらいたい」と、未来を担う若者に願いを託します。これからの若い人をお願いしたいことは、身の回りの大切な人が豊かで健やかな人生を送るためには、核兵器はあつてはならないという信念を持ち、それをしっかりと発信し続けることです。

若い人を中心とするこうした行動は、必ずや各国の為政者に核抑止政策の転換を決意させるための原動力になることを忘れてはいけません。被爆から3年後の広島を訪れ、復興を目指す市民を勇気づけたヘレン・ケラーさんは、「一人のできることは多くないが、皆一緒にやれば多くのことを成し遂げられる」という言葉で、個々の力の結集が、世界を動かす原動力となり得ることを示しています。為政者を選ぶ側の市民社会に平和を享受するための共通の価値観が生まれ、人間の暴力性を象徴する核兵器はいらないという声が市民社会の総意となれば、核のない世界に向けて

広島および長崎への原爆投下から75年を迎えた昨年、私の総理就任から間もなく開催された国連総会の場で、「ヒロシマ、ナガサキが繰り返されてはならない。この決意を胸に、日本は非核三原則を堅持しつつ、核兵器のない世界の実現に向けて力を尽くします。」と世界に発信しました。わが国は、核兵器の非人道性をどの国よりもよく理解する唯一の戦争被爆国であり、「核兵器のない世界」の実現に向けた努力を着実に積み重ねていくことが重要です。近年の国際的な安全保障環境は厳しく、

核軍縮の進め方を巡っては、各国の立場に隔たりがありますが、このような状況の下で核軍縮を進めていくためには、さまざまな場の国々の間を橋渡ししながら、現実的な取り



平和記念式典であいさつする菅首相

大切な人が亡くなった悲しみと生き延びた者の苦しみに終わりがありません。心に深く傷を負った被爆者は、それでも前を向き

「僕ら若人の力によって、きっと平和な世界を築き上げてみせる」と決意しました。悲しみや苦しみを抱えながらも、被爆者の方々は生きることを決して諦めず、共に支え合い、広島町の復興に向け立ち上がりま

本日の別れは会えなくなることはなく、忘れてしまう



平和への誓いを述べる子ども代表の宅味義将さん（左）と伊藤まりあさん

の歩みは確実なものになっていきます。被爆地広島は、引き続き、被爆の実相を「守り」、国境を越えて「広め」、次世代に「伝える」ための活動を不断に行い、世界の165カ国・地域の8千を超える平和首長会議の加盟都市と共に、世界中で平和への思いを共有するための文化「平和文化」を振興し、為政者の政策転換を促す環境づくりを進めていきます。

核軍縮議論の停滞により、核兵器を巡る世界情勢が混乱の様相を呈する中で、各国の為政者に強く求めたいことがあります。それは、他国を脅すのではなく思いやり、長期的な友好関係を作り上げることが、自国の利益につながるという人類の経験を理解し、核により相手を威嚇し、自分を守る発想から、対話を通じて信頼関係を基に安全を保障し合う発想へと転換することです。そのためにも、被爆地を訪れ、被爆の実相を深く理解していただいた上で、核拡散防止条約に義務づけられた核軍縮を誠実に履行するとともに、核兵器禁止条約を有効に機能させるための議論

は、保健、医療、福祉にわたる支援の必要性をしっかりと受け止め、高齢化が進む被爆者の方々に寄り添いながら、今後とも、総合的な援護施策を推進してまいります。

先月14日に判決が行われた、いわゆる「黒い雨」訴訟につきましては、私自身、熟慮に熟慮を重ね、被爆者援護法の理念に立ち返って、上告を行わないこととしたしました。84名の原告の皆さまには、本日まで、手帳交付の手続きは完了しており、また、原告の皆さまと同じよ

組みを粘り強く進めていく必要があります。特に、国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石である核拡散防止条約（NPT）体制の維持・強化が必要です。日本政府としては、次回NPT運用検討会議において意義ある成果を収めるべく、各国と共に取り組むことのできる共通の基盤となる具体的措置を見いだす努力を、核軍縮に関する「賢人会議」の議論等の成果も活用しながら、引き続き粘り強く続けてまいります。

被爆の実相に関する正確な認識を持つことは、核軍縮に向けたあらゆる取り組みのスタートです。わが国は、被爆者の方々をはじめとして、核兵器のない世界の実現を願う多くの方々とともに、核兵器使用の非人道性に対する正確な認識を継承し、被爆の実相を伝える取り組みを引き続き積極的に行ってまいります。被爆者の方々に対して

そのために、小さな力でも世界を変えることができると信じて行動したい。

誰もが幸せに暮らせる世の中にすることを、私たちは絶対に諦めたくありません。争いのない未来、そして、この世界に生きる誰もが、心から平和だと言える日を目指し、努力し続けます。

広島で育つ私たちは、使命を心に刻み、この思いを次の世代へつないでいきます。令和3年（2021年）8月6日

子ども代表

広島市立袋町小学校6年

伊藤まりあ

に加わっていただきたい。日本政府には、被爆者の思いを誠実に受け止めて、一刻も早く核兵器禁止条約の締結国となるとともに、これから開催される第1回締約国会議に参加し、各国の信頼回復と核兵器に頼らない安全保障への道筋を描ける環境を生み出すなど、核保有国と非核保有国の橋渡し役をしっかりと果たしていただきたい。また、平均年齢が84歳近くとなった被爆者をはじめ、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面できざまな苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、黒い雨体験者を早急に救済するとともに、被爆者支援策のさらなる充実を強く求めます。

本日、被爆76周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者のみ霊に心から哀悼の誠をささげるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と手を取り合い、共に力を尽くすことを誓います。令和3年（2021年）8月6日

広島市長 松井一実

うな事情にあった方々についても、救済できるよう早急に検討を進めてまいります。

今や、国際平和文化都市として、見事に発展を遂げられた、ここ広島市において、核兵器のない世界と恒久平和の実現に向けて力を尽くすことをお誓い申し上げます。原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆さま、ならびに、参列者、広島市民の皆さまのご平安を祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

■国連事務総長メッセージ 要旨

アントニオ・グテレス国連事務総長が、広島市の平和記念式典に寄せたビデオメッセージの要旨は次の通り。

◇

原爆による犠牲者およびそれを生き延びた方々に敬意を表せることを光栄に思っています。

76年前のこの日、1発の原子爆弾がこの都市の人々に想像を絶する惨禍をもたらしました。

原爆は数万人の人々の命を一瞬のうちに奪い、その余波でまた数万人の命を、そしてその後長い年月にわたる多くの人の命を奪いました。

原爆を生き延びた被爆者による活動は、人間の不屈の精神力を証明するものです。自分たちが味わった苦しみを運命を他の者がたどらなくてすむようにと、彼らは経験を伝える活動に身をささげてきました。

国連は、核兵器のない世界というビジョンを被爆者と共有しています。これは、今年

私は、核兵器を保有するすべての国に、核兵器のリスク削減措置を採択するよう呼びかけます。

私たちは核兵器を使用してはならないという規範が当然のように存続すると考えてはいけません。私は各国政府に対し、核拡散防止条約（NPT）再検討会議を通じ、核兵器のない世界へのコミットメントを強化するよう要請します。

核兵器が使用されないことを保証できる唯一の方法は、核兵器の完全な廃絶です。核兵器のない世界というゴールに向け、国連および個人として、引き続き全力で取り組んでいく所存です。